

将来都市像について（集計）（2.21 現在）

1. 桜井市の今後 10 年の将来像としてふさわしいと思うもの

- ① 「つながる うけつぐ はじまる 桜井」
- ② 「住んでよし 訪れてよし 笑顔あふれるふれあいのまち 桜井」
- ③ 「はじまりの地から未来へ 歴史と自然がいきづく万葉のふるさと 桜井」
- ④ いずれでもない

2. ①②③を選んだ理由

①	②	③	④
1 票	2 票	10 票	2 票

①	
②	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 桜井市は歴史があるが故に、地域への新住民の受け入れが柔軟に進んでいない印象がある。他地域から桜井市に来る人たちが入ってきやすい地域づくりをする必要がある。 ▪ 市民の中に外来者への気遣いやおもてなしの心を根付かせることが必要。 ▪ 分かりやすい表現だと思う。
③	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 古代文明の発祥の地といわれる桜井であるのでふさわしいと思う。 ▪ 元号が「令和」となり、万葉集が注目されていることに加え、市歌でも万葉のふるさとをうたっているから。 ▪ ①と②は桜井という言葉がなければ、どこの市でも当てはまるものである。③については、桜井市の個性がよく表されていて、将来にわたり持続すべき桜井市の姿であると思う。グローバル化やテクノロジーの進歩により社会情勢が激しく変化する中であっても、桜井市の風土や文化を大切にしまちづくりを進めるためには、この将来像がふさわしいと考える。 ▪ 理解しやすいのが良いと思われる。 ▪ 具体的に桜井市をイメージしやすい。 ▪ 推古天皇が飛鳥に宮を移すまでの約 400 年間にわたり、古代国家成立の舞台となった桜井市は、「古事記」「日本書紀」「万葉集」にゆかりの地や、寺社の建築・彫刻に面影を残す歴史・文化遺産などが多く、市民の大きな誇りとなっているから。 ▪ 豊かな自然と歴史資産を有する地域の特性を活かし、新しい産業と観光を創出し、活力あるまちづくりをイメージできる。

3. ①～③以外でふさわしいと思われる将来像

・「時空の旅が始まるまち 桜井」

桜井市にある古墳時代以来の歴史遺産は国民の宝物。市民には、その遺産の真の価値を知り、この地に誇りを持って暮らしてほしい。また、訪れる人には、ここにしかない古の感動を体感するために何度も訪れてほしい。

4. その他、全般に関する意見

- ・纏向遺跡や箸墓古墳と出会うことができ、国家の成立や日本の始まりを考えることができるとともに、万葉集や古事記、日本書紀にゆかりの深い桜井を全国に広めるために、地域の活性化や観光振興に特化した地域づくり、歴史のふるさと桜井市づくりをするべき。
- ・JR・近鉄駅周辺の整備とJR線を高架化することにより、南北の通行問題が解消され、桜井の表玄関としてふさわしい姿となるのではないかと考える。また、通勤通学が便利になることによる人口増も見込まれるものとする。
- ・総合計画において示される文言やイラスト等については、必要に応じて注釈を入れるなど、市民に分かりやすくすべきである。
- ・将来ビジョンに新規産業の方向性が具体的に示されていないように思う。具体案が示されないと都市計画も見えないと思うので、総合計画の中で将来ビジョンをより明確にする必要がある。
- ・桜井市にどのような歴史があり、何が体感できるかといったことを効果的にプロモーションする必要がある。そのためには、10年間のビジョンを持って歴史観光都市に生まれ変わることで、しっかり市外からお金を流入させる環境を整えることに専念すべき
- ・地域包括ケアシステムの充実を、今後10年間で必ず達成しなければならない。
- ・具体性を持った計画とする。
- ・市街地の拡張を抑制し、既存市街地・歴史的市街地の充実を図る。
- ・優先順位をつける。
- ・三輪山を背景とした集落・田園風景を守る。
- ・戦略的プロジェクトの基本目標②の実現に期待したい。
- ・上つ道（国道169号、山の辺の道を含め）に、歴史資産と農村資源をマッチングさせた環境整備を行ってほしい。